



町長日誌

No.230

町長日誌の第230号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

12月13日 (火曜日) PM2:45

昨日(月曜日)早朝から札幌出張で、今朝7時半札幌発の特急「宗谷」で帰ってきました。現在JRは旭川乗り換えが基本ですがこの宗谷号だけは直通で稚内市まで走っています。国が旅行支援を再開したことを受け最近「高齢者夫婦のツアー」企画されたようで、70代の夫婦20組ほどのツアーと今回二度目の遭遇でした。ガイドが一人ついて稚内まで行くのか豊富温泉までなのか行程や内容は聞いていませんが、今は車内販売も無く、マスク必着、座席の向かい合わせは禁止ですから約半日の長距離移動はちょっと大変かな? と思いましたが、旅行ができる日が戻ってきたことは幸いなことですね。

11月24日 (木曜日)

臨時議会を開催して頂きコロナ禍および燃油高騰や生活物資・生産資材などの値上がりに対する町独自の支援として①子育ておよび非課税世帯への生活支援(世帯一万円)②マイナンバーカード普及支援(既に取得およびこれから取得する町民に2千円の商品券)、③資材高騰と牛販売価格の下落にあえぐ酪農畜産農家への経営支援を決定して頂きました。また、国が実施する電気・ガス食料品などの価格高騰の影響を受ける世帯に対する5万円支給も合わせてできるだけ早く通知して支給できるようにしました。

11月25日 (金曜日)

私は全道約60の国保病院と診療所を持つ町で構成する「北海道国民健康保険診療施設開設者協議会」の会長をしています。自治体を持つ診療施設には国保病院のほか町立病院があり本町のように町が直接運営する場合と民間に委託する場合があります。診療所も同様です。国保と町立の違いは名称ぐらいのものですが国保の場合、医療器械の導入時に若干の補助金が出る利点があります。さて、自治体病院はどこも診療や入院収益だけでは掛かる費用を賄えないので国は地域を支える大事な医療機関として普通交付税で一定の金額を支援して頂いています。さらには不採算病院として特別交付税を追加して支援してくれています。

50床ある興部国保病院では2億円弱の交付税が国から支援されていますが、この算定基礎はこれまで許可されている50床全てが対象でしたが国は使っていない病床は算定基礎に適さないとして、昨年から「一年間で最も使用した病床数」で交付税を計算するとしてしまいました。本町の病院は33~36床ぐらいが最大使用数ですので15床分ぐらいが減額することになります。これは大変な減収になることから方針を変えるように総務省・厚労省・関係国会議員に要請してきましたが、幸い総務省の担当部署は地方の小規模病院の実態を理解されていることから、今後意見交換を重ねることになりました。

さて、この日誌が読まれている頃は皆様お揃いで新年をお迎えのことと思います。今年も一年間本当にお世話になりました。令和5年卯年が素晴らしい年になりますことを心からお祈り申し上げます。お陰様にてこの日誌も230号となりましたがこれからも宜しく願います。なお、新年のご挨拶はこれまで同様に広報の「年頭のご挨拶」に代えさせていただきます。皆様、良いお年をお迎えください。では、また来年。



お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務係まで。TEL 82・2131です。